

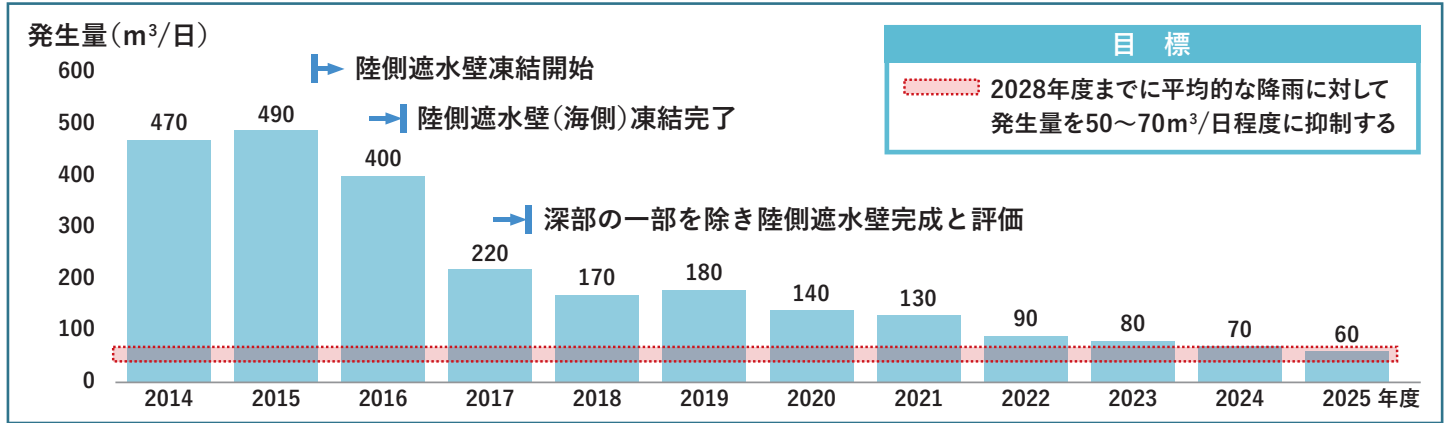
# 福島第一原子力発電所の廃止措置等の進捗状況

(2026年5月13日時点)

～ 2025年度 汚染水発生量について ～

## 発生量を抑制する目標を達成しました

重層的な抑制対策の継続により、2025年度の1日あたり汚染水発生量(以下、発生量)は、約60m<sup>3</sup>でした。2024年度の発生量約70m<sup>3</sup>に引き続き、**発生量が低減**しました。



2025年度は平年より少ない降雨量でしたが、**平均的な降雨量であっても発生量は約70m<sup>3</sup>程度の評価**となり「2028年度までに**平均的な降雨に対し発生量を50～70m<sup>3</sup>程度に抑制する**」目標を、**3年前倒して達成**※しました。

※ 2024年度については、降雨量が少なく平均的な降雨量での発生量は約80m<sup>3</sup>の評価でした。

### 汚染水対策の状況

地下水を安定的に抑制するために、3つの基本方針にそって**重層的な汚染水対策を進めています。**

#### 3つの基本方針

##### 取り除く

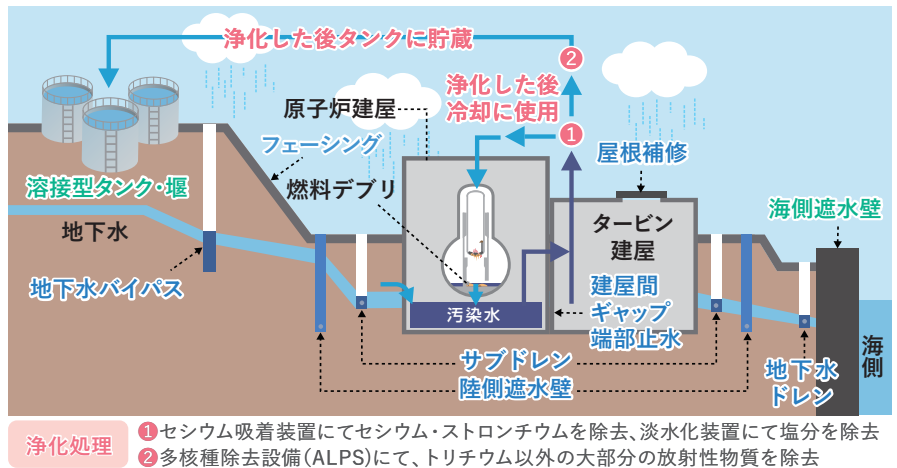
汚染水の浄化処理を進めて、リスクの低減を図っています。

##### 近づけない

地下水が汚染源に触れることで、汚染水とならないように取り組んでいます。

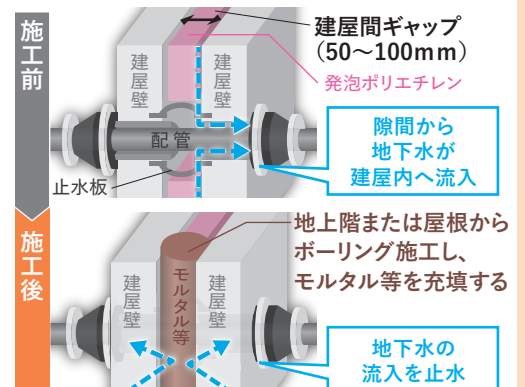
##### 漏らさない

汚染水が漏えいするなどして、環境に影響を与えることがないように取り組んでいます。



現在、汚染水抑制対策として「陸側遮水壁内側の敷地舗装」「建屋屋根破損部の補修」「建屋間ギャップ端部止水」を継続して実施しており、**引き続き更なる発生量の抑制に努めていきます。**

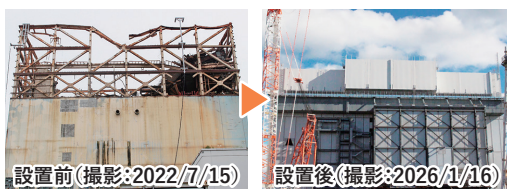
#### 建屋間ギャップ端部止水



#### 4号機原子炉建屋山側敷地舗装(フェーシング)



#### 建屋屋根破損部の補修(1号機 大型カバー設置が完了)



# 2号機 原子炉压力容器内部調査を実施しました

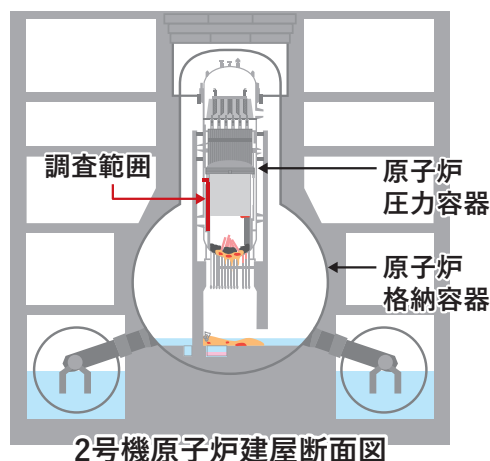
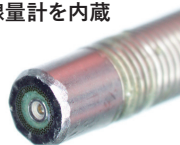
小型線量計内蔵の耐放射線性ファイバースコープを使用し、**原子炉压力容器**(以下、RPV)内部の調査を初めて実施しました。

## 調査概要と結果(速報)について

RPV内部にアクセス可能なノズルに繋がる原子炉水位計装配管からファイバースコープを挿入しました。ノズルからRPV内部に挿入し、炉心部を囲っているシュラウド外側を底部方向に**約6m**まで降下させ、線量測定と映像の取得を行いました。

### ファイバースコープ

- 直径5mmと6mmの複合、長さ30m
- レーザー照射による映像取得
- 小型線量計を内蔵



2号機原子炉建屋断面図

## 取得した線量率

線量率はノズルから約4m下まで上昇傾向でしたが、それ以降は低下傾向となりました。

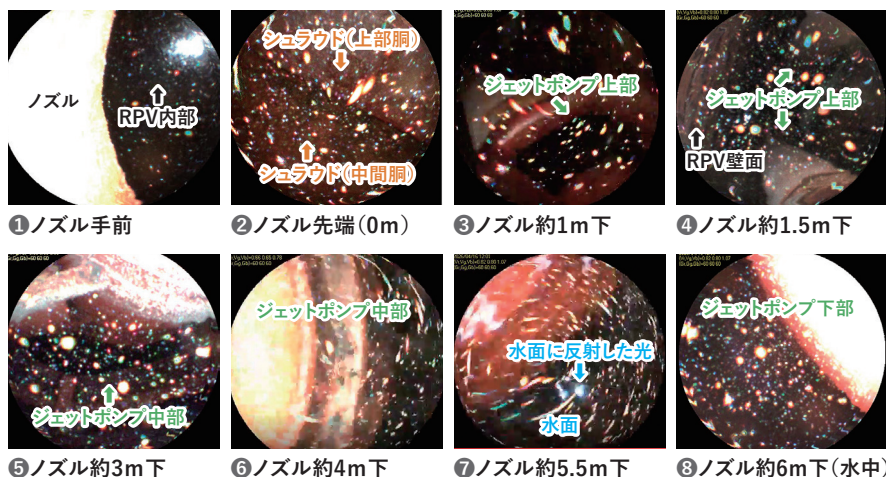
燃料デブリの位置を特定することは難しいものの、**線量分布の傾向(線量の高低位置等)は通常炉とは異なる位置にあることが推測されます。**

※1:本調査で使用した線量計では、核種の特定ができないため、線量をセシウム137と仮定した場合の線量率を参考値として示しています。 ※2:放射線が「もの」に当たった時にどれくらいのエネルギーを「もの」に与えたのかを表す単位です。

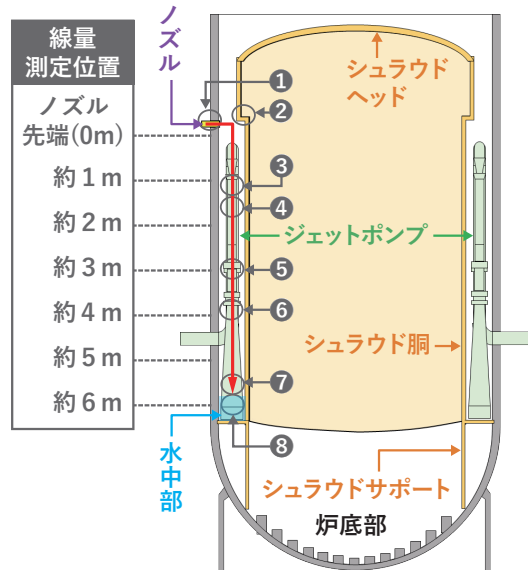
ノズルからの距離	線量率(セシウム137換算※1)
0m	約0.9Gy <sup>※2</sup> /h
約1m	約2.7Gy/h
約2m	約3.4Gy/h
約3m	約3.9Gy/h
<b>約4m</b>	<b>約4.7Gy/h</b>
約5m	約2.1Gy/h
約6m	約0.6Gy/h

## 取得した映像※3

調査範囲においてシュラウドやジェットポンプ※4に大きな**破損が無い**ことを確認しました。



## 炉内構造物と調査範囲



※3:写真中の斑点は、空間中のダスト(粉塵)、水中は浮遊物と推定していますが、詳細については今後分析していきます。また、写真中の構造物の名称についても現段階での推定となります。 ※4:原子炉内の冷却水をノズルから高速噴流(ジェット)として吹き出し、効率よく循環させるための設備です。

今後、得られた映像の画像処理等を行い、確認した炉内構造物の特定を行っていきます。  
今回の調査で得られた知見については、**更なる調査や他号機へ展開**をしていきます。

編集発行  
責任者

## 東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

廃炉コミュニケーションセンター コミュニケーション企画グループマネージャー

〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22

本紙に関するお問い合わせ

TEL(0240)30-5531(平日午前9時~午後4時)

こちらでもご覧いただけます。

【1ForAllJapan】<https://1f-all.jp/>  
目次より「いちえふのいま」を選択

